

2025年問題について

超高齢化社会と言われる2025年問題。

団塊の世代（1947～1949生まれ）が75歳以上の後期高齢者となり、医療や介護などの社会保障費の増大が懸念される問題です。2025年には、団塊の世代が約2,200万人を超えると予想されており、**国民の4人に1人が75歳以上**という、超高齢社会に突入します。

認知症の方も、2015年では500万人が2025年推計では700万人となり、**65歳以上の5人に1人が認知症**を発症すると推計されています。

また、**年間134万人(H29)**が亡くなる「**大相続時代**」の到来で、**約40年ぶりに法制度も大きく見直されました。**

遺産分割をより円滑にできる環境整備だけでなく、**夫を失った高齢者の妻への生活への配慮**など「**老老相続**」がもたらす問題にも対応する改正となっています。